令和５年度第１回伊賀市文化振興審議会　議事録

■日　時／　令和５年６月６日（火）午前 10 時 00 分～午前 11 時 40 分
■場　所／　伊賀市役所本庁舎２階　202・203 会議室
■委員

学識経験者		中川　幾郎	帝塚山大学（名誉教授）	出席
文化関係団体	文化芸術振興全般	中村　忠明	伊賀市文化都市協会（理事長）	出席
	俳句文学関係	植田　美由喜	芭蕉翁顕彰会（事務局長）	出席
	美術関係	小島　憲二	市展「いが」運営委員会	出席
公共的団体等	教育関係（小・中学校）	五百雀　豊	校長会	欠席
	教育関係（幼児教育）	若山　みゆき	幼児保育担当	出席
	福祉関係	田邊　寿	伊賀市社会福祉協議会（事務局長）	出席
専門知識を有する者	文化財関係	福田　良彦	伊賀市文化財保護審議会委員	出席
	観光関係	稲垣　八尺	伊賀上野観光協会（専務理事）	欠席
	産業関係	菊野　善久	上野商工会議所（副会頭）	出席
公募市民		山本　いずみ		出席
その他市長が必要と認める者		小阪　のり子	（画家）	出席

事務局
［伊賀市企画振興部］風隼部長、佃次長
　［文化振興課］西村課長、奥田
　［美術博物館建設準備室］馬場室長
オブザーバー
［公益財団法人伊賀市文化都市協会］
　服部参事、杉本事業課係長、百南事業課係長

■内　容
１　あいさつ
２　委員の変更について
３　協議事項
　⑴　短期評価（前年度事業）と当年度計画について
　⑵　今年度の取り組みについて
４　その他

■議事録

1　会長あいさつ

会長	今の社会で一番弱い立場にあるのは、子どもや若者。人権や福祉の視点を入れた文化政策を実行していく。まだ、評価段階ではなく、どれだけ行き渡っているかである。条例・基本計画・審議会・事業カードが揃うことで、科学的な政策が出来る。審議をよろしくお願いする。

2　委員の変更について

事務局	（資料１について説明）

3　協議事項

（１）短期評価（前年度事業）と当年度計画について

事務局	（資料２に基づき、事業カード提出一覧（伊賀市分）について説明）
事務局	（資料３-１、資料３-２に基づき、事業カード提出一覧（ぶんと分）について説明）
事務局	（資料４に基づき、３つの評価指標について説明）
会長	説明に対し、意見・評価をお願いする。
委員	はじめてのアウトリーチはインパクトがあった。インパクトが今後に与える影響は大きいと思う。文化的視点をふまえて福祉との連携をはかりたい。
委員	幼児期から文化に触れることは大切。幼児を対象としたクラッシックコンサートでは、参加者が少なかったのが残念。周知が必要だと感じた。
委員	市展では、リタイアした高齢者だけでなく高校生が増えてきた。良い状況になってきている。継続して欲しい。
委員	高齢者の参加は多いが、子どもの参加が少ない。子どもたちへ浸透させていくのが難しい。需要を見極めて行きたい。来年は芭蕉翁生誕 380 年。全国俳句大会の選者は全国レベルの先生方である。全国区で展開できるようにしたい。
委員	アウトリーチ事業継続のために、地元のアーティストを起用する、行政の各部署と連携するなどコスト面での工夫を考えたい。多くの団体から事業カードが出てくることで、各団体の活動内容を知り、情報を共有することが伊賀市の文化力になる。
委員	事業カードの「課題など実施により感じたこと」欄を記入することで気づきを得ている。将来につなげていくことを書くようにする。文化財の活用により市民が文化財に触れることはすばらしい。こどもたちが文化財に触れられる機会も検討してほしい。全国レベルの地元人材の活用もしてほしい。
委員	観光産業との連携による文化発信を行っている。経済団体は、経済的な視点で評価することになる。忍者フエスタ、賑わいフエスタ、灯りの城下町などコロナ明けで規模を拡大していきたい。アウトリーチ事業として伊賀学ジュニア検定で各小学校に出向いている。障がい者の自立支援では、文化的イベントよりスポーツへの参加が多く、バランス良く事業展開ができるとよい。
委員	文化事業への子どもの参加は、保護者の都合により制限されている。みんなが同じよ

	うに体験できるとよい。子どもの時の体験が、大人になってから、やってみようという気持ちのきっかけになっていることが多い。
委員	基本方針３にある文化の継続のための若手との連携が出来ていない。市民と文化に携わる人との接点があまりないが、接点がうまくいっているところは、若者を育てている。この条例の真意が伝わっているか。
会長	意見へのコメントは最後に一括して行うので、次の議題にはいる。

（２）今年度の取り組みについて

事務局	（資料５-１、資料５-２に基づき、今年度の取り組みについて説明）
会長	質問や追加のコメントがあるか。
委員	日根野作三をもっと伊賀で周知してほしい。県立美術館と友の会美術セミナーを行って、もっと伊賀の人に知ってもらいたい。 （※7 月１日～三重県立美術館で回顧展が開催される。）
委員	日根野作三は全国レベルのクラフトデザイナーである。もっと伊賀の人に知ってもらいたい。
事務局	昨日チラシが届いた。チラシの掲示等周知を行う。
会長	今年度以降、このような流れで進めてほしい。 地域創造（総務省のアートで地域活性を目的とする外郭団体）の助成金をぶんとが得たことは評価すべき。助成金を得たことで市の委託料を減らすようなことがないよう行政にお願いする。 チラシなどへのクレジット記載は、引き続き周知してほしい。 子どもを対象としたアウトリーチ事業は、評価できる。子どもに、アートが職業になる可能性を伝えなければいけない。 高校生の市展参加が増えたことは良いことだ。新しい世代の願望・要望を聞きとることが必要。 貧困の概念を変えるべきである。経済的な貧困だけでなく、時間的、肉体的、機会の貧困がある。機会の貧困にある人達にこそアートを届けてほしい。アートは人間の生存に深くかかわっている。豊かなものにだけに享受される状況を変えてほしい。 行政職員には、文化政策の職員研修を提案する。関係団体も参加できるとよい。 文化活動には住民自治（住民・地域社会・民間）に任せる文化事業と、行政（団体自治）が行う事業があり、フレキシブルな関係を構築できる仕組みを考えたい。 伊賀の人は伊賀出身の偉人のことをあまり知らない。伊賀出身の偉人を掘り上げて顕彰し市民に伝えていく仕組みを作る研究が必要。 気づきのできる事業カードにしていってほしい。 障がい者施設、病院へのアウトリーチ、インリーチ事業への展開をしたい。 行政の本庁、各施設、ぶんとの役割分担を整理したい。ぶんととは、行政内部では留保できない高度な専門知識をもった人材を集積する組織と考える。 事務局にお返しします。

事務局	その他、ご意見・ご質問何かありますか。
委員	美術館博物館建築構想はどこまで進んでいるのか。
事務局	7月に第1回準備委員会開催。委員が決定した段階。これから市民の意見を聞き構想を作り、設計に進んで行く。
委員	図書館跡の活用についてかなりの時間を費やし検討してきた委員に、今回の話になった説明はしたのか。市の方針･経緯を説明した方がよいのではないか。答えは不要。
事務局	以上で令和５年度第１回文化振興審議会を終了する。